会員の皆様からの声「帯解（おびとき）の儀に思う」2025.11

帯解の儀とは　7才の女の子の成長を祝う七五三の正式名称のようです。7才を迎えた女の子が、それまで着物の付け紐を使っていたのをやめ、初めて帯を締める儀式のことです。

10月末、今日は何も予定がないので、内孫の七五三の準備をしています。40年位前に娘が着た着物、ぽっくり、髪飾りを出して陰干しをしています。

私には3人の女の子の孫がおります。外孫2人（高3、高1）内孫1人（6才）です。高校生の孫2人は娘の着物でお祝いをしました。6才の内孫も同じ着物でお祝いをする予定です。「娘が着た着物を孫達が着てお祝いする」ということは家族のつながりが感じられ、とても幸福なことだと思います。着物を通して娘や孫たち、又自分自身の思い出がわき上がってきて心が温かくなってきます。

内孫は今月お祝いを行いますが、健やかに成長してほしい、又素敵な思い出を作ってほしいと願っています。そして息子家族、娘家族が家族の絆を大切に、それぞれが幸福な人生を送ってもらいたいと思います。

小春日和のあたたかな日差しの中で晴着を準備している祖母（バーバ）の思いです。

文•写真 ： 草間 麗子